

平成29年7月15日

TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2017 における
車両規定違反のお詫び

有限会社 レボリューション
代表取締役 青木 隆

謹啓 向夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先ほど T.R.A.事務局（トヨタカーズ・レース・アソシエーション）より発表されました、第3戦・富士スピードウェイ大会における再車検時の車両規定違反について、関係者各位に心よりお詫び申し上げます。今後このような事がないように反省し、戒めの心をもって勤めます。

今回このような事に至った経緯をお話しさせていただきます。

まず、第2戦のオートポリス大会中に、1号車のショックアブソーバーのロッド付け根にガタを発見しました。しかし、レースウイークに交換を行うとフィーリング変化をはじめとするリスクがあると判断したため、交換には至りませんでした。現地で新品の指定サスペンションを購入し、ガレージに戻ってから交換作業することにしました。

第3戦富士のガレージメンテナンス中、フロントサスペンション減衰力の測定とガス反力の測定をしたところ、左右差が有るのが分かり、ついガス圧を調整してしまいました。

調整後にダンパーテスターで性能を確認したところ、減衰力は純正值とズレも無く、性能は変わらないと判断いたしましたが、今回の再車検ではガス反力が高く違反と指摘されました。純正值のガス圧は未計測（恐らく3.5～3.8kほど）ですが、当社で注入したガス圧はプラス0.1～0.3kほどの左右差を調整致しました。

その状態で富士のレース前の6月17日に事前テストを行いました。当日は契約ドライバーの佐々木雅弘がテストしましたが、ダンパーテスターの減衰データは純正值通りだったためか、ドライバーはその変化に気づくことはありませんでした。弊社としても性能向上を狙って行った処置では無かったため、ドライバーにはガス圧の左右差調整した旨を、報告することはありませんでした。佐々木雅弘に対してはポイント剥奪をはじめとする、とても不利な状況に立たせてしまったことを申し訳なく思っております。

今回の再車検により、我々が使用するショックアブソーバーは違反との判断が下されました。調整すること自体が違反だという認識が甘く、この様な事態になってしまったことを深く後悔し反省しております。本当に申し訳ございませんでした。

甚だ略儀ではありますが、書面にてお詫び申し上げます。